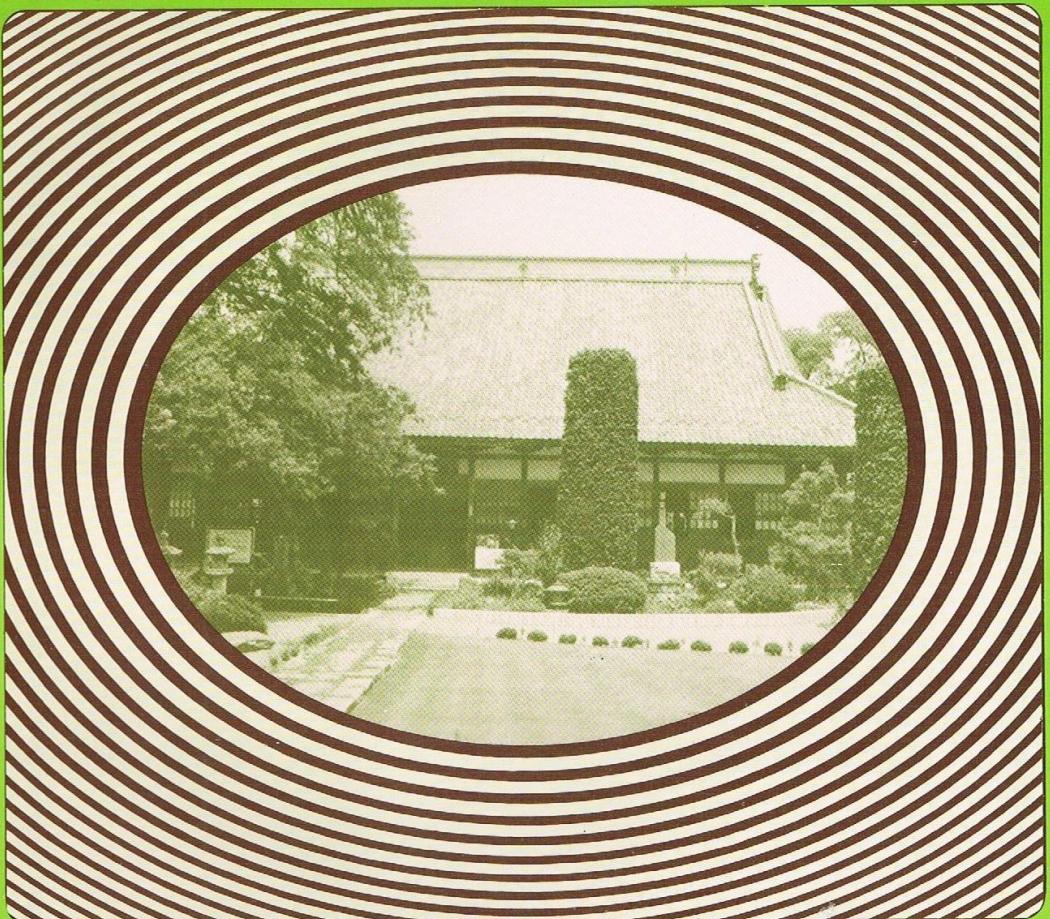


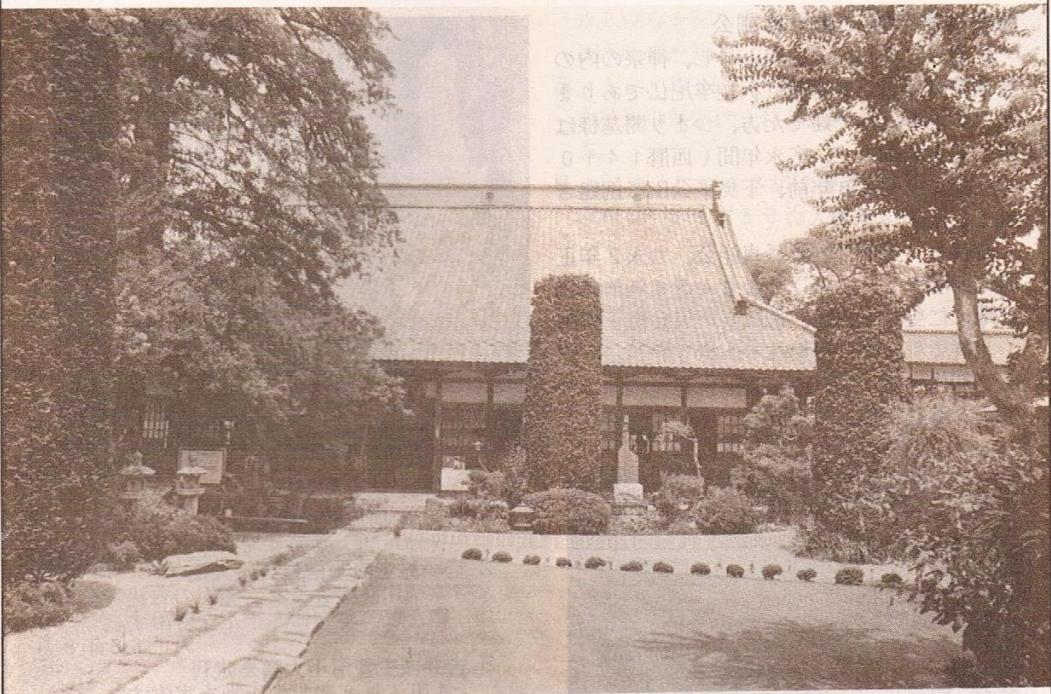
曹洞宗  
檀信徒のしあり



曹洞宗仁叟寺

多野郡吉井町字神保1295番地 電話(027387)3080

# 仁叟寺 檎信徒のしおり



仁叟寺全景



仁叟寺住職  
渡辺 隆司

私は先代石橋大和尚について 13 才にして  
仏門に入り、号を大澄、名を隆司(たいちよ  
うりゅうじ)といい、昭和 22 年に吉井町多  
胡 776 竜源寺住職を拝命、昭和 41 年仁叟寺  
30 世住職として法を受け継ぎ、今日に及ん  
であります。

私の仁叟寺住職としての心づもりは、祖師  
がたより歴代住職へと "うつわ" から "うつ  
わ" へ移すが如く綿々として守られ伝えられ



てきた尊い法燈を、護持してゆくこと、又約  
500 年の長き伝統と歴史を有する中で、歴代  
住職と檀信徒が力を合わせ創建し維持してき  
た諸堂伽藍を整備してゆくこと、さらには寺  
が地域社会にあって愛され文字どおり開かれ  
道場として、社会に大きくかかわりあって  
いく、その為の各種行事、研修会、坐禅会等  
の実施を含めて寺の生き方としての "慈悲心"  
を行じていきたい。

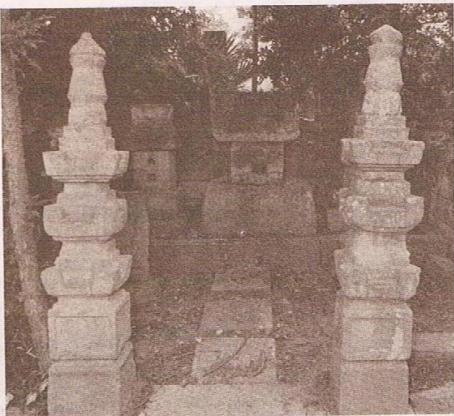
このような考えにより寺門興隆、檀信徒の  
繁栄を念願し努力いたす所存でありますので、  
檀信徒各位はもとより有縁無縁の皆様方の御  
協力、御法愛を切によろしくお願ひいたします。

## 仁叟寺の由緒と沿革

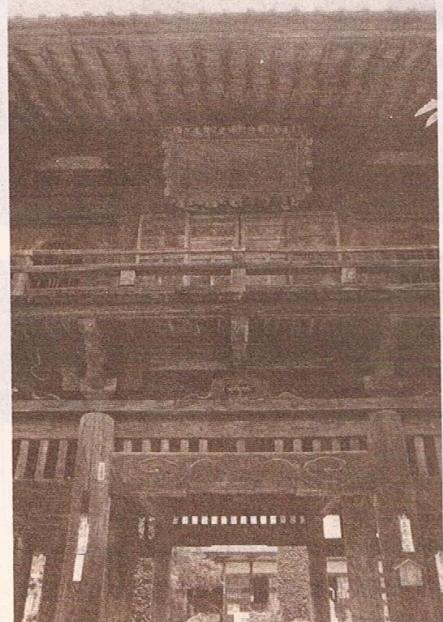
### 開基は奥平城主奥平貞訓公

仁叟寺は天祐山公田院と号し、禅宗の内の曹洞宗に属し、御本尊は釈迦牟尼仏であります。お寺を始めて建てた方、つまり開基様は奥平城主貞訓公で、応永年間（西暦1410年）今より568年前、下奥平公田に創建されました。

時移り、貞訓公の裔孫貞能公、大永2年正月（西暦1522年）今より456年前に現在地に仁叟寺を再建、徳風高い直翁齋正禪師（北群馬郡白郷井村雙林寺四世）を請し、開山（初代住職）となし、鎮護國家の道場とされ、寺領を寄進されたのであります。



開基塔（推水塔）



### お寺の外護者

#### 1 長根城主小幡縫殿介

永禄年間、修理を加える。

#### 2 宮崎城主奥平信昌公夫人龜子

（徳川家康公長女）先祖の菩提寺たる由緒を以って寺領3千疋を寄附す。

天正18年8月

#### 3 吉井城主吉井沼小大膳亮定利

1町6反8畝歩の土地を寄附す。

文禄9年

#### 4 地頭溝口豊前守勝信

寺領、金穀を寄附す。

元禄元年

#### 5 徳川3代将軍家光公

当時の前後合するの寺領を除地とし、慶安2年8月（西暦1649年）10世月峯牛雪大和尚に、御朱印25石として改めて下附される。

#### 6 寺有地の変遷

- 明治維新の際寺有土地悉く上地となる。
- 明治8年上地の5町7反余払下げに成功買求める。
- 昭和23年農地開放により寺有地悉く買収される。
- 建物総て火災等にあり事なく今日に至る。



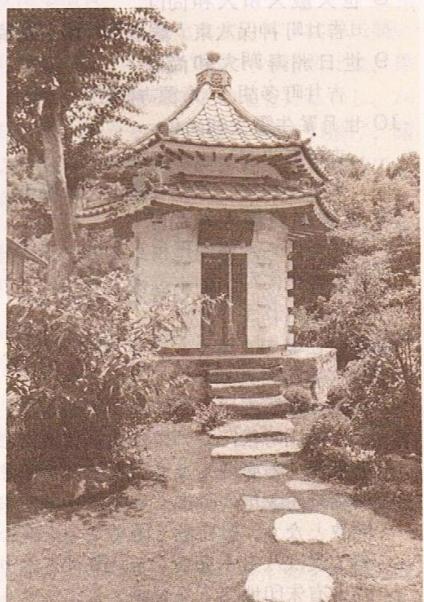
### 堂塔等の歴史

- 1 惣門建立 11世眼国相朔大和尚代  
寛文3年3月(西暦1663年前)今より315年前
- 2 鐘樓堂建立 12世白眼岸賢虎大和尚代  
(西暦1683年)今より295年前、  
30代大澄隆司大和尚代昭和53年3月  
改修す。
- 3 山門建立 18世祐峯智貫大和尚代  
宝暦11年9月(西暦1763年)今より215年前



惣門

- 4 明治23年12月県下各宗寺院中、2  
カ寺の内の一寺として古社寺保存に列し、  
永久保存を図るよう内務省より50円の  
御下賜金を賜る。
- 5 大正9年2月28日、28世円成海雲  
大和尚の代宗門上位の別格地に認可され  
る。
- 6 六角堂、仁叟寺多胡碑覆屋建立  
昭和51年3月30世大澄隆司代



六角堂



鐘樓堂



山門

## 法燈の歩み

### 2世天如禪相大和尚は

徳高く伽藍の整備檀信徒の化導につくし当寺の基を作った方で中興の祖と仰がれています。

### 4世莊山道巖大和尚は

長野県佐久郡本牧村望月信永院開山  
甘樂郡甘樂町天引 向陽寺開山

### 5世海雲存珠大和尚は

吉井町城山 宝福寺開山 後廢寺  
吉井町 上河原正應院開山 "

### 8世天威大祐大和尚は

吉井町神保八束 観音寺開山 後廢寺

### 9世日洲寿朔大和尚は

吉井町多胡 竜源寺開山

### 10世月峯牛雪大和尚は

吉井町吉井 玄太寺開山  
吉井町長根 松林寺開山 後廢寺

### 29世雲巖石橋大和尚は

諸堂伽らん修理屋根瓦葺替完了庫裡改築  
社会教化に尽すい本寺様より功により再中興を贈られました。

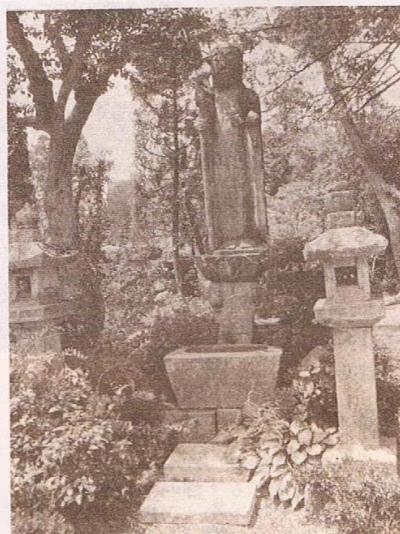
維新に仁叟寺を護った26世機山学禪、27世大応禪海両大和尚

元来仁叟寺は、御朱印25石を有したので、徳川時代においては強いて維持の方法を講究する必要もなかったのですが、明治維新改革の時悉く寺領は土地、つまり開放となり、維持漸く困難なるを憂い、学禪方丈は八方手をつくし、檀徒と図り從前の寺有朱印地払下を企画、事末だならず病のため明治4年退穀す。

法弟禪海方丈住職となり先住の意志を継承し、熱心にこれを唱道し明治8年遂に其目的を達し、旧朱印地田畠5町7反余歩寺有払下げに成功、仁叟寺経営の基礎が確立したわけあります。



本堂



地蔵(天明三年)



薬師(鎌倉時代)

### 勇僧学禪方丈

26世学禪方丈は、博学にして徳望厚く吉井藩主信発公もその人となりに、あつく礼遇したと云う。

又希代の勇僧として其名を知らる、抄録すれば慶応4年2月、ぶちこわしと称し暴民蜂起して今の辛科神社に集合、其の勢2千余人24日没を期し吉井町に押寄せた。

その時学禪方丈は緋の衣を着し、手に念珠を持ち只一人今の玄太寺観音前に出向き、暴民等に向ひ「吉井町は悉く吾信徒なれば愚僧の衣の袖に免じ猶預して呉れよ」と説論した。暴民は「吉井藩は小藩なるも大名として兵器をもっており、我々は小民をしいたげる強欲非道の富豪者をこらすのが目的であり、それを妨げる時は止むを得ないが、それをしなければ吉井町内は貴僧に免じ猶預すべし」と答えた。学禪は誓いて兵器を用いさせないと約束したれば町内は無事に収まり、暴民は塩川片山の富豪邸宅を打ちこわし、甘楽郡新屋林地内下



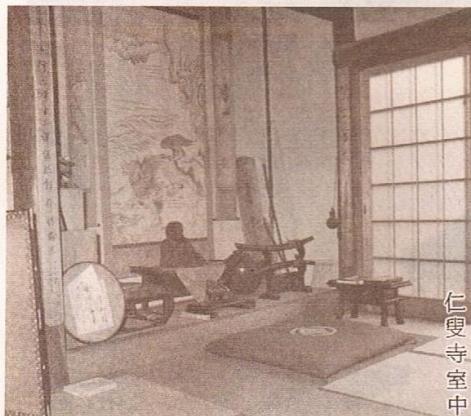
法衣をまとい、寺宝の長刀を携へ決心を示す。「集りたる檀徒一同コハ一大事なり」と早速相談を整え防戦の用意をなす。其日は暴民襲い来らず塩神保、多胡、入野村小串多比良、黒態、岩井等の富豪及村吏の宅を打こわし、26日昼頃基本拠たる辛科神社の森に引揚げ、諸方より奪取した酒食を飲食し、勢をつけて仁叟寺を襲わんとする。

仁叟寺防禦軍たる義軍には、檀徒以外の者も加わり其勢3百余、暴民等を逆襲せんとて二手に分れ、正軍は学禪自ら大将となり、吉井藩士小林省吾を副将とし、別軍は向井重郎治頭首として橋爪東作副将とし、正兵は地蔵坂より別軍は塩の拝み小根山道より進む。

暴徒之を聞き地蔵坂上に進出し、南高原にて両軍將に衝突せんとす。時別軍は銃手を多く有したれば拝み、小根より暴民の本陣を眼下に銃火を注ぎたる。

彼等大いに驚き隊長河合与十郎を始め、銃火を恐れ走りたれば暴民軍、一度に崩れ立ち長根、片山方面に逃去りたり、ここにおいて酔倒れたる暴民8.9名を捕え仁叟寺へ引渡す。彼等しきりに助命を乞う、血氣の若者彼等の暴動を憎むる余り漸首せんとす。学禪之を制し大法なればとて一応吉井藩へ引渡し陽に処分を請い又密に助命を請いたれば、悉く将来を戒め放免せられたりといふ。

「是等の人々の中近年迄存命せし者あり、いづれも深く学禪和尚の高徳を感謝して語り伝へたり。」



平に到り暴行中、吉井藩は暴民の他郡に入りたるを見て時の政府への申証として空砲を響かせた。

暴民は其音を聞き、違約を大いに憤り直に反返して吉井町に乱入り、平素慈善の聞え高き堀越家には手を附けず、其他の富豪7、8戸打ちこわし、更に違約したる仁叟寺を焼打せんとそつ然たり。

学禪之を聞き倉卒、檀徒を呼び集め、吉井藩は武士にあるまじき背反なるも、之が為寺を焼かれでは檀徒一同は固より累代の祖師にも申証なし、死を以て之を防がんと緋の衣の



群馬県多野郡誌より

## 寺宝・什物の主なもの

- |         |  |         |  |
|---------|--|---------|--|
| 1 竜の茶酌  | 宗祖道元禅師唐より飯国の際本師如淨禅師が海中難航のとき竜神に与うべく授与せられしものといふ。 | 7 多胡碑   | 6角堂に納む   |
| 2 千手觀音  | 行基菩薩作、当國25番札所、羊太夫の守本尊、子授け觀音と云われ尊崇されている。        | 8 掛抽    | 当寺開山禅師より2世和尚に授与されたるもの  |
| 3 画幅    | 宋牧溪の親子竜、日本三幅対の一と云う。                            | 9 御駕    | 2赤1黒1住職使用のもの、開山より使用せしか御朱印が下りたるより使用せしものか不明                      |
| 4 額面    | 山号、寺号、東樂心越禪師書                                  | 10 カヤの木 | 当寺開山手植と称し果実が左巻であるので世に知らる。天宮の宿り木、火防神木・昭和27年11月11日群馬県天然記念物指定となる。 |
| 5 梵鐘    | 天和3年竜集癸亥9月                                     |         |  |
| 6 赤銅の大釜 | 赤銅板剝合せ1石入り永録年間使用のものと云う。                        |         |  |



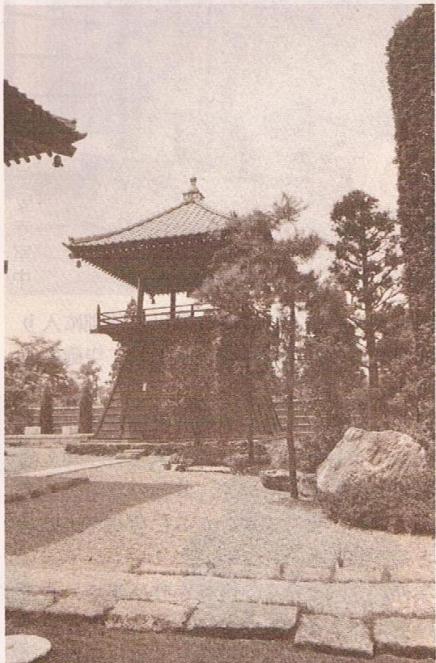
2 千手觀音



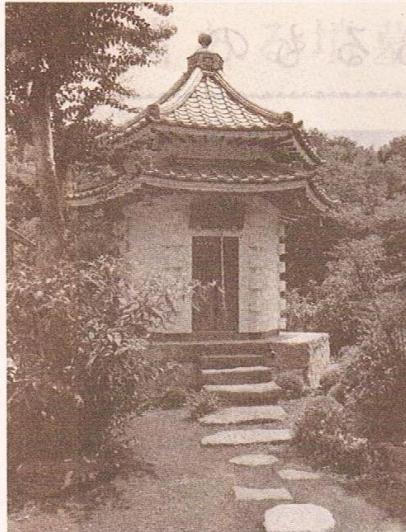
6 赤銅の大釜



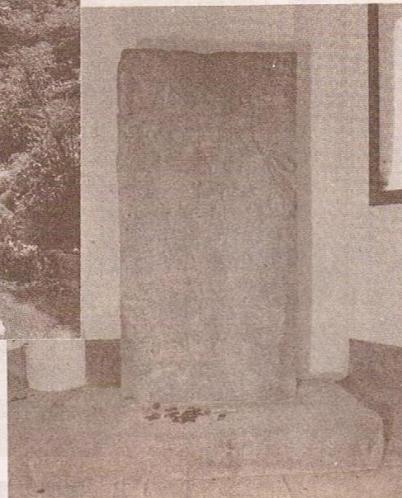
4 額面(寺号)



5 梵鐘



六角堂



多胡碑



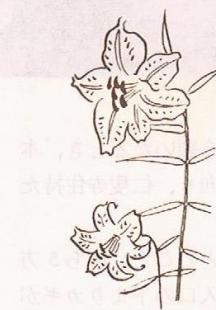
御駕



本堂



カヤの木



## 本堂の由緒あるもの



### 1 帯戸 9本

古代の目積み板に砂利をおいて手にて摩擦し一見そ悪のものゝように見ゆるも滑らかなる所に彩色を以つて松の桧を書きたるもの3本、梅を書きたるもの3本、牡丹、蓮、そてつ各1本。年代不祥



### 2 欄間の彫物 12ヶ

とくさ彫と称し両面ともに同種の彫物即ち彫刻したるものをとくさにてみがきたるものを云う。梅2 菊水4 桃桜2 楓2 ぶどう2 高欄間にあり。外竜の彫刻は片面彫り其外四方組子を中心とした四方彫刻10あり。年代不祥



### 3 牢 獄

本堂東北の、二階一部室を牢獄となし、犯罪者で寺の境内に来り助命を願いたるとき、本人を入れせしめ、飯を与え事情を聞き、説話し、而して奉行所などに出向き、仁叟寺住持たるものとて助命を願い免じを得て、寺より追放したりと云う。

因にこの牢は、地牢と居間との合ひの子作りにて、余り他に例がないとのこと。即ち3方面が壁となり北面がさん間となり、光をとれるようになっている。2階入口の下よりカギが掛けられ外出出来ぬよう作られている。

## ※ 由緒ある墳墓 ※

### 由緒ある墳墓

#### 1 開基塔(応永塔)

天祐院殿仁叟貞訓大居士。奥平城主貞訓  
公立塔と伝う。

#### 2 長松院殿恵林了智大居士

長谷川淡路守 寛永16年3月8日寂

#### 3 祖庭院殿趙英宗伯大居士

長谷川讀岐守 慶長13年2月7日寂

#### 4 智光院殿実參了心大居士

溝口豊前守勝信 元禄4年6月22日寂



開基塔

## 仁叟寺の主な行事

毎年3月第2土曜日 恒規大般若転読 } 大法会  
大施餓鬼

4月8日 花まつり(降誕会)

毎週土曜日曜日 書道会

夏期 諸団体参禪会



恒規大般若転読大法会

大施餓鬼大法会





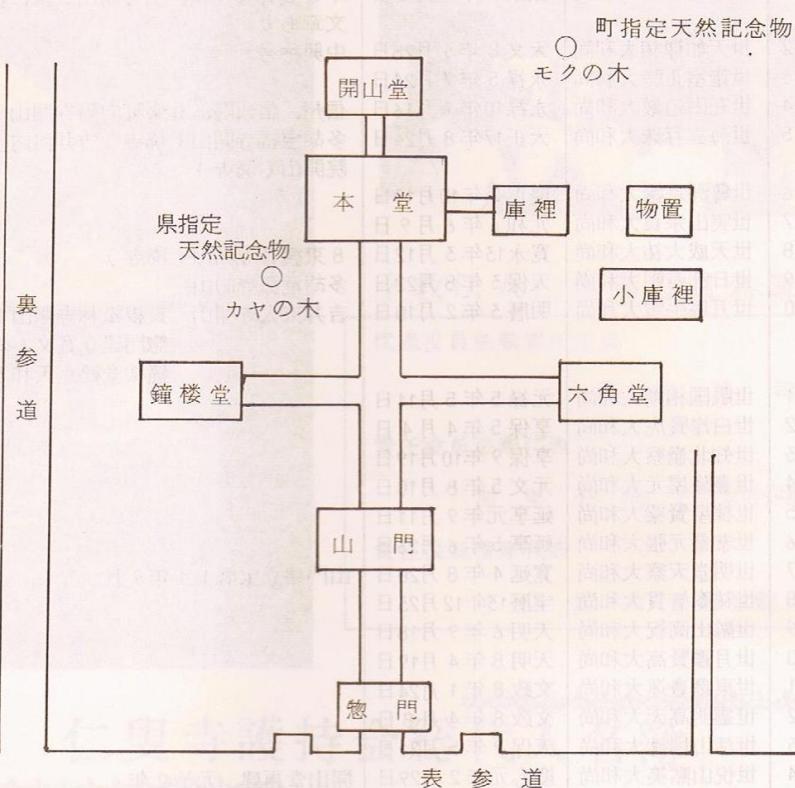
仁叟寺全景

古社寺保存法指定(明治23年) 仁叟寺  
 吉井町指定重要文化財(昭和46年)  
 群馬県指定天然記念物(昭和27年) カヤの木  
 吉井町指定天然記念物(昭和52年) モクの木

## 仁叟寺の概要

- 名 称 曹洞宗別格地 天祐山公田院仁叟寺
- 歴 史 応永年間(1394)創建  
大永2年(1522)現在地に移転  
開山直翁齋正禪師
- 寺 宝 龍の茶杓、羊太夫守千手觀音、薬師如来 その他
- 伽 藍 惣門、山門、鐘樓堂、六角堂、本堂、開山堂、大庫裡、小庫裡、物置  
境内地約3,300坪(10,852.87m<sup>2</sup>)

## 仁叟寺主要建物及び配置図



## 仁叟寺堂宇・常什物等調

昭46.4.23 当主

名 称	坪	m <sup>2</sup>	建 立 年	詳 細
本 堂	122.00	403.30	大永2年正月再建	456年前
庫 裴	51.00 下38.5 二階12.5	168.59	昭和32年5月改築	29世雲巖石橋代
小庫 裴	21.16	69.95	不祥	本堂再建の折奥平より移転したものと云う。 456年前
開 山 堂	10.50	34.71	不詳元治2年丑再建	106年前 26世幾山学禪代
山 門	24.00	79.33	宝曆11年正月	208年前 18世祐峯智貞代
鐘 樓 堂	6.25	20.66	天和3年	287年前 12世白岸賢虎代 嘉永5年8月24世悦山默笑代再建
惣 門	3.75	12.39	寛文3年3月	11世眼国相朔代 307年前
物 置	10.00	33.00	昭44年5月	30世大澄隆司代
合 計	248.66	821.93		

## 天祐山公田院 仁叟寺各世代年表

世代	法 謹	示寂年月日	概 要
1	世直翁齋正大和尚	大永3年1月5日	本寺雙林寺4世、当寺開山2世に授与したる文章あり
2	世天如禪相大和尚	天文8年3月28日	中興称号
3	世雍室正睦大和尚	永祿5年7月24日	
4	世莊山道巖大和尚	永祿10年1月16日	信州、信永院、甘樂町向陽寺開山
5	世海雲存珠大和尚	天正17年8月24日	多胡宝福寺開山（廃寺）吉井河内上河原正応院開山（廃寺）
6	世萼洲宗嫩大和尚	慶正2年10月10日	
7	世実山宗貞大和尚	元和6年6月9日	
8	世天威大祐大和尚	寛永13年3月12日	8束觀音寺開山（廃寺）
9	世日洲寿朔大和尚	天保3年8月22日	多胡竜源寺開山
10	世月峯牛雪大和尚	明暦3年2月10日	吉井玄太寺開山 長根松林寺開山（廃寺）惣門建立寛文3年3月鐘樓堂建立天和3年3月
11	世眼国相朔大和尚	元祿5年5月11日	
12	世白岸賢虎大和尚	享保5年4月4日	
13	世知北嶺察大和尚	享保9年10月19日	
14	世豊隆屋元大和尚	元文5年8月10日	
15	世棟屋賢梁大和尚	延享元年9月11日	
16	世恭翁元張大和尚	延享5年6月26日	
17	世明堂天察大和尚	寛延4年8月20日	山門建立宝暦11年9月
18	世祐峯智貫大和尚	宝暦13年12月23日	
19	世融山高祝大和尚	天明6年9月18日	
20	世月鑑賢高大和尚	天明8年4月19日	
21	世東翁豊運大和尚	文政8年1月24日	
22	世靈明高天大和尚	文政8年4月8日	
23	世活山瑞林大和尚	天保9年5月21日	
24	世悅山默笑大和尚	慶応元年2月29日	開山堂再建 元治2年 鐘樓堂再建 嘉永5年8月
25	世鉄巖祖英大和尚	万延元年12月1日	
26	世機參學禪大和尚	明治6年9月19日	
27	世大応禪海大和尚	明治38年1月20日	
28	世印城海運大和尚	大正15年11月20日	隨意会地開
29	世雲巖石橋大和尚	昭和41年2月3日	再中興称号諸堂伽らん屋根瓦葺替完了 庫裡改築
30	世大澄隆司大和尚		

